

信濃国分寺(上田市)

ここは現在の信濃国分寺/上田の八日堂と呼ばれる



右手方向を見る



三重塔/重要文化財/室町時代中期創建













重要文化財 (旧国宝)

信濃国分寺三重塔

全高二〇・一メートル

信濃国分寺は平安末期現地に移ったと考えられ 源頼朝公発願と伝えるこの塔内に建久八年の墨書があったとされるが様式上室町中期の建立と推定される 明治四十年国宝に指定され 昭和七年から同八年にかけて全面解体修理が行われた 外観は軒反が強く壮麗で一部唐様のほか和様式であり 内部は四天王柱上の台輪や内外陣の詰組など純唐様式で佛像は金剛界大日如来の木像である









正面は長野県宝の本堂



妻入り入母屋造





長野県宝 信濃国分寺本堂

国分寺本堂(薬師堂)の建立は、文政十二年(一八一九)に発願され、天保十年(一八四〇)に起工し、万延元年(一八六〇)に竣工しました。本堂再建は発願から完成まで実に二十二年の歳月を費やした大事業で、十二冊におよぶ「信濃国分寺勧進帳」(上田市指定文化財)や、柱、梁、扉をはじめ、屋根の瓦にいたるまで刻まれている寄進者の住所氏名などに、当時の勧進の苦心が偲ばれます。

本堂は、柱間一間を八尺(約二・四M)にとる桁行六間、梁行四間の入母屋造、妻入の建物です。外観は善光寺本堂のように母屋のまわりに一間の庇(低い屋根)をつけているので、二階建てのように見えます。内部は前側の外陣(参詣の空間)と、奥の内陣(仏の空間)にわかれ、内陣の両脇と背後の二間通りは入側(僧侶の通路)となっています。内陣には薬師如来を本尊として日光菩薩、月光菩薩及び十二神将を安置しています。

建立に携わった職人は、大工棟梁が佐久耳取村(現小諸市)の田島喜平、彫工は地元上沢出身の竹内八十吉で、瓦師は三河から招かれていたことが記録されています。

本堂は近世の堂としては東信地方最大の建造物で、向拝の彫刻にみられる鋭い彫りや、虹梁の複雑な絵様などに江戸時代末期の特徴がよくあらわれています。

平成九年二月二十日 指定

長野県教育委員会
上田市教育委員会







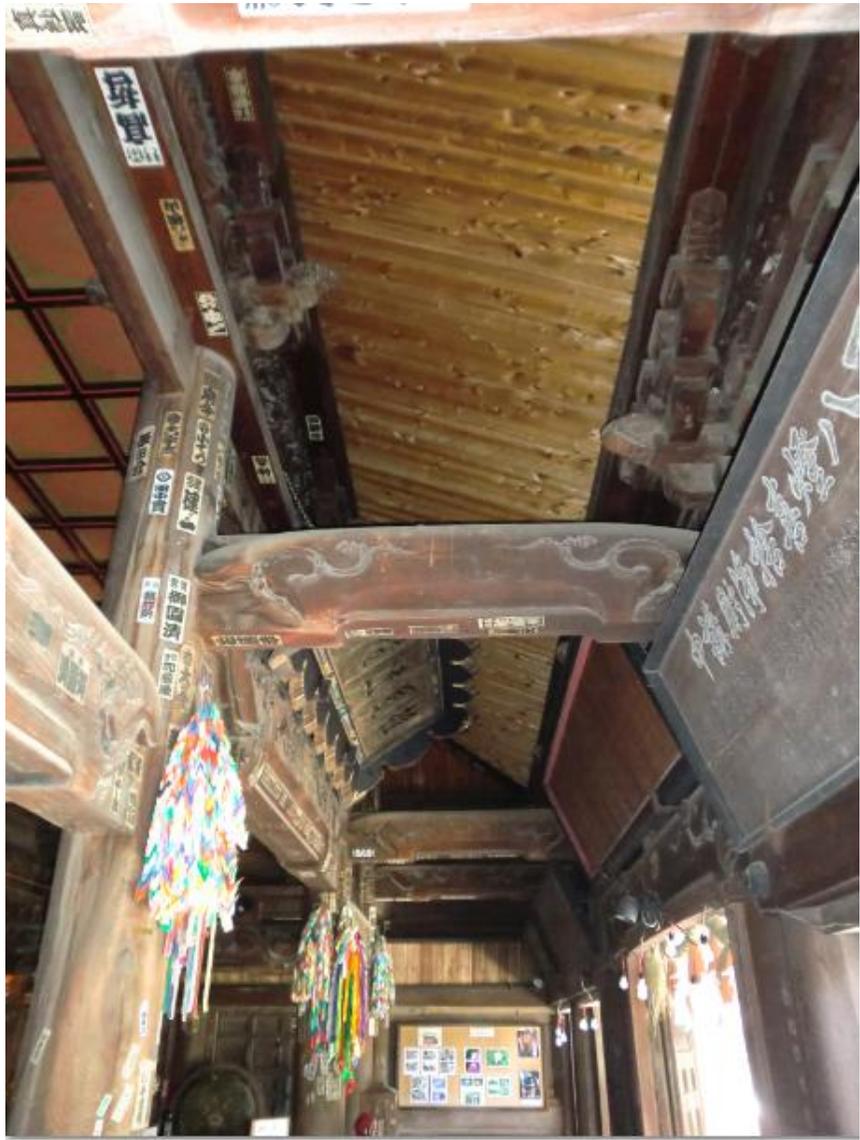












外陣の格天井





外陣虹梁



本堂右側面



本堂背面



本堂左側面



さまざまな石造物がある





正面は石造多宝塔/上田市指定文化財/鎌倉時代造立











石幢/上田市指定文化財



地藏堂



鐘楼/1801年上棟



大黒天堂/対象13年再建



こんな石造物もあった



軒そりも軽やかでかなり精巧な軒裏



観音堂



正面は宝篋印塔

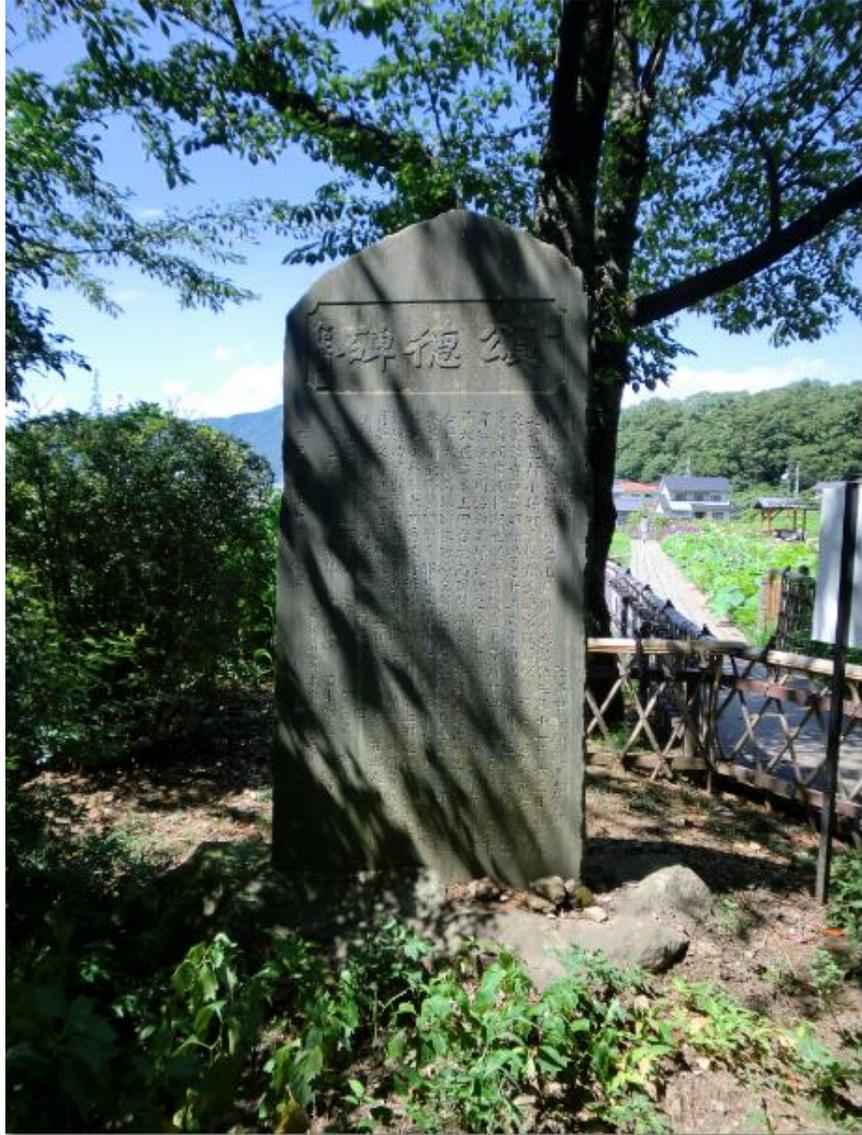












境内の裏手には蓮池が広がっている





ここには客殿と庫裡がある





昔の瓦が残っている





客殿



参考ホームページ

<http://www.avis.ne.jp/~kokubuni/>

<http://d.hatena.ne.jp/yakahu4220/20090505>

<http://nagatabi.hariko.com/ueda/kokubun.html>

<http://nagatabi.hariko.com/ueda/kokubun/04syasin.html>

<http://www1.ocn.ne.jp/~oomi/koku.html>

<http://ogino.ninpou.jp/youkadou/index.htm>

<http://museum.umic.jp/map/document/dot34.html>

